

平成30年度 人権を学ぶ会事業（案）

事業の目的	【目的】 町民が、身近な地域で一人ひとりの人権の大切さについてを学び人権尊重の雰囲気づくりを推進する。また、町民の人権意識を高めるとともに、差別や偏見などを自らの問題ととらえ、積極的に正していこうと行動できる気運を高める。
	【概要】 自治会の自主的・主体的な取り組みとなるよう、地域の課題や様々な人権問題の中から自治会が学習テーマを決定し、ビデオ視聴や懇談等を実施することにより、人権問題への気づきや解決に向けた行動に結びつける。
事業の効果	【効果】 一人ひとりの人権が尊重された住みよい自治会や地域、まちなかで、心ゆたかに生活する。
依頼事項	<ul style="list-style-type: none"> ・新年度事業として計画していただき自治会総会等で開催周知していただけるようご配慮願います。 ・多くの住民の方に参加していただけるよう、地区推進員を中心に自治会役員全体で実施計画の作成や参加の呼びかけをお願いします。

《H30スケジュール案》

期日	項目	対象	説明	備考
3月14日	地区推進員研修会	地区推進員	地区推進員の役割、地域における人権学習の必要性等について研修	
5月29日	第1回推進協力員会議	推進協力員	学習テーマ、教材等の決定	
6月22日	第1回地区推進員会議	地区推進員	学習テーマ等の説明及び実施（計画作成・運営）依頼	
7月31日	第2回推進協力員会議	推進協力員	事前打合せ、訪問自治会の決定	
8月21日	第2回地区推進員会議	地区推進員	日程・内容・当日役割の確認、住民周知・参加呼びかけのお願い	
9月	人権を学ぶ会の開催 ↑ ↓	自治会住民	ビデオ視聴、ミニ講演、ワークショップ、交流研修等（懇談の有無は自治会が選択）	高齢者対象人権を学ぶ会（任意） 9月～3月
10月				
11月				
1月8日	第3回推進協力員会議	推進協力員	人権を学ぶ会の総括	記録集、まとめ作成

[その他、参加や地域住民への参加呼びかけをお願いする事業(案)]

- 年間6回程度 分かりやすいじんけんの話(講演会)
- 12月2日(予定) 北栄町じんけんフェスティバル2018

※人権関係の教材ビデオ(DVD)の貸し出しをしています。会合等にあわせた学習などにご利用ください。

平成29年度人権を学ぶ会のまとめ

実施期間	平成29年9月～11月
実施自治会	北栄町内63自治会
参加者数	995人 (昨年度参加者数 1,039人)
参加率	20.4% (昨年度参加率 21.9%)

〔参加者の意見から〕

人権を学ぶ会の取り組みについて（抜粋）

- 根気よく、少人数でもやりつづけることが大事。
- もっとPRが必要。地区の事業として推進すべき。若い人の参加が悪くなっていると思う。
- ビデオを見るだけの研修なら、ビデオ貸し出し回覧にすればいい。ビデオを見てそれなりに感じるものはあり学習できたが、本来、皆を集めての学習会であるなら、意識の共有の観点から、意見交換はあつて得るものは大きいと思う。
- ビデオ視聴による学習会は、分かりやすく良かった。
- すごろくトーク（ワークショップ）の様な自然と身につく学習方法がとてもいいと思います。
- 時間検討、子育て年齢の参加は考えておられるか。
- 意見交換はできるほうが良い。参加者を増やすだけならVTR視聴だけでもいいが、人の意見を聞いて考えも深まっていくと思う。
- どの自治会も参加者が少ないと聞いている。自治会単位での学習以外での取り組みはできないか。（不参加者に対する対策）
- 何のためにビデオを見たり、集まったりするのか、この会のねらい、開催の仕方について今後再考していただきたい。開催の意図（ビデオ視聴→アンケート→総括）を明確に。

〔考察〕

全ての自治会で実施された今年度の参加者数は、鳥取県中部地震の影響により3自治会が中止となった前年度に比べても44人の減少となった。例年、参加人数が少ないとの意見が多く寄せられるが、今年度は学習テーマに関する意見も多く、特に同和問題を扱った自治会では、人権問題は同和問題だけではない、なぜまた同和問題なのかなど敬遠する意見が多くあり、このような意識が参加人数に関係しているかもしれない。

また、懇談を行う学習パターンの自治会が年々減少しているが、懇談（意見交換）を求める意見も少なからずあり、柔軟な会の進め方が求められる。

社会・地域・家庭・自分を振り返っての意見（抜粋）

- 語り合える場で自分を見つめ直したり、差別はよくないということを確認すべき。自分はこういう会に消極的だったが、参加してよかったし、こういう場が必要。
- ネット社会で人間がロボット化しているのでは。面と向かったコミュニケーションが必要では。
- 先入観、偏見を持たずに話してみると、わかり合えることが多い。
- 人のうわさ、自分自身の思い込みが、事実かどうか分からないままに判断する危険を改めて感じた。
- ネットは便利だが、他人の書き込みは信じない。
- 以前にくらべ、差別がなくなっているかなと思っていたが、インターネットなど目に見えないところで広がっているんだと思うと、学習することは必要だと思う。

【考察】

54自治会が「インターネット時代における同和問題」を学習テーマとして開催し、部落差別が今なお無くならないことへの憤りや、さらなる学習が必要とする意見が多い反面、ほんとうに差別はあるのか、現在も行き過ぎの制限が多いなど、学習テーマ自体を疑問視する意見もあり、部落差別の現状をもっと伝えていく必要があると思われる。

一方、インターネット書き込みの不確かさや様々な分野に対する悪意を持った差別書き込みの存在について一定の認識を持っていただき、各自で情報等の正否を判断する力を持たなければならないことを考えていただけた。

学んだことから行動に活かす意見（抜粋）

- ひとりひとりを大事にし、よりよい社会にしていくために、どういう行動を起こしていけばよいか、継続して学習していきたい。
- 知らぬ間に他人を傷つけてしまう事があるので、家庭でも人権について話し合う場を持ちたい。
- 傷つくという視点を学習できた。悪気がなくても言葉の重みを考えようと思った。
- 人はみんな同じ事は絶対にないので、その分むずかしいけれども「一人一人を大切にする」ようになりたい。
- 何気ない一言が、人を傷つけてしまうんだなとわかった。親として、大事なことは何なのか、ぶれない考えを持つようにしたいと思った。
- インターネット時代であるからこそ、簡単に何でも調べられる世の中なので、自分で何が正しいのかを考えなければいけないなと思った。
- 障がい者だけでなく困っている人の立場になって考え、行動できるようになりたいと思った。

【考察】

何気なく発する言葉によって傷つく人がいるかもしれないことを認識することにより、相手の立場や気持ちに思いを寄せることや、違いを認め合うことの大切さを改めて考える機会となっている。多くの参加者が同様の意見を書いており、行動に繋がっていくことを期待したい。